ヒイラギモクセイの花様器官形成について

高　山　信　明

ヒイラギモクセイは，日本に自生するヒイラギと中国原産のギンモクセイとの雑種と言われているが，出現の由来は不明である。花は秋に葉腋および頂端に，直径８～10㎜の白い合弁花を束生する。花は２本の雄ずいと１本の雌ずいを持ち，多少良い香りがする。

近年，ヒイラギモクセイの中に，春に花様の器官を形成するものがあり，今回いくつかの知見が得られたので報告する。

形状

当園で栽培中のさし木５～６年生，高さ約50㎝のものと，広島大学附属福山中・高等学校の敷地内のものとを比較し，表１に示した。花様器官は，新しく伸びた枝の先端部分に１～数個つき，その色は白または一部緑がかる。花弁は離弁で，すべてが同じ形でなく一部に鋸歯を有するものもある。クチナシ様の芳香が強い。雄ずいを分化しているものは多かったが，雌ずいを完全に分化しているものはなかった。

分布

広島近郊からの報告（主に電話連絡）による発生件数を表２に示した。49件の内，ギンモクセイ１件，ヒイラギ２件の報告があった。ほとんどが，植付後10年未満であり，20年が１件，50年程度が１件であった。

考察

モクセイ科の花は，本来合弁花であり，開花習性から考えても，本来の花が春に狂い咲きをしたとは考え難い。花弁の形状から考えても，葉が変形したものと考えるのが妥当であろう。原因としては，発生が広範囲にわたっていることから，気候等の環境的な影響とは考え難く，遺伝的な要因が強いのではないかと思われる。発生の仕方にも多少の差があるので数系統のものが存在するのではないかと考えられる。今後，以上のような点をより詳しく調査して，発生の機構を明らかにしてゆくとともに園芸的な価値を高める方法を検討してゆく予定である。

なお，本報告を作成するにあたり，広島大学附属福山中・高等学校，山王憲雄氏の御協力を得たことを，記して感謝する次第である。

植物公園で観察されたもの

広島大学附属福山中・高等学校で観察されたもの

表１　花様器官の形状比較

項目＼場所	植物公園	広島大学附属福山中・高等学校
花の着く位置	新芽の先	新芽の先
新芽１本当り花数	1	1～3
花色	白及び緑色がかった白	白
花径	3 cm	約 2 cm
花弁数	5～6	3～4
雄ずいの分化	あり	あり
雄ずいの形状	花糸は白，やくは黄，２本	花糸は白，やくは黄，２本
雌ずいの分化	緑色心皮様のものはあるが離生	緑色心皮様のものはあるが離生
香り	クチナシに似た強い香り	香りあり

表２　発生状況（平成元年５月20日～６月８日）

場所	件数	場所	件数
広島市中区	2	大竹市	1
〃 西区	7	三原市	1
〃 南区	1	尾道市	1
〃 安佐南区	5	世羅郡世羅町	1
〃 安佐北区	6	〃 甲山町	1
〃 安芸区	1	山県郡豊平町	1
〃 佐伯区	6	三次市	3
安芸郡坂町	1	福山市	2
佐伯郡大野町	2	山口県岩国市	1
〃 佐伯町	1	〃 熊毛郡	1
賀茂郡黒瀬町	2	〃 防府市	1
東広島市	1	合計	49